

環境報告書 2013



中京化成工業株式会社

環境報告書 - 2013 -

中京化成工業(株)では、2003年3月にISO14001推進計画を作成し、環境問題への体制作りを開始しました。

環境マネジメントシステムを5月から仮運用し、翌2004年2月から本格運用、そして2004年6月18日に「本社・工場」を対象としてISO14001の認証を取得しました。

1999年12月に取得しておりますISO9001と合わせまして、

2013年度も品質と環境のマネジメントシステムの統合を目指して、品質目標と環境目標を可能な限り統合して設定するように努めました。

環境方針／環境目的・目標

環境方針

当社は、環境マネジメントシステムの最上位の「環境基本方針」に環境問題に取り組む決意と姿勢を表明すると同時に、より具体的に、かつISO14001規格に適合した「環境方針」にまとめて制定しております。

「環境方針」 平成16年2月制定 平成16年4月改訂

環境基本方針

- ①我社は自然と共生することに最大の関心を払う。
- ②我社は環境配慮型製品の開発を進める。

環境方針

1. 当社の各事業活動、製品及びサービスを踏まえた環境マネジメントシステムを構築し、環境保全に適合した活動を推進します。また、蓄積された潤滑理論をベースに自動車関連、グリース、工業用関連、離型・剥離用関連、洗浄用関連などの分野で顧客の環境負荷低減を支援します。
2. 変化する諸条件及び情報を反映し、環境マネジメントシステムとの活動実績の継続的改善、環境負荷の低減及び汚染の予防を図ります。
3. 環境法規、条例、規制や当社が合意したその他要求事項を遵守します。
4. 事業年度毎に環境目的及び目標の設定をし、運用します。
5. 全従業員に環境教育を実施すると共に、ビジネスパートナーに対しても理解を求め一致協力して環境管理を実施して行きます。
6. この方針は、文書化し広く一般に開示します。

2004. 4. 1

中京化成工業株式会社

代表取締役社長

木村正泰

2013年度 環境目的・目標

「環境方針」をベースに、当社の管理できる活動、製品、サービスから特定された「著しい環境側面」、法的及びその他の要求事項、更には利害関係者の見解等を配慮して「環境目的」を設定しています。また、その「環境目的」の達成に向けて各年度に「環境目標」を決めて対応し、その施策の実現に取り組んでおります。

環境目的（全社）

- ① 環境配慮型製品の開発と販売促進
- ② 資源・エネルギー・廃棄物の削減
- ③ 法規制及び組織が同意するその他の要求事項の順守
- ④ 予防処置

部 門	品質・環境目標		
	内 容	目 標 値	
営業 1 部	顧客における要望をくみ上げ新規製品化する	年間売上 1,500 万円	
	環境配慮型製品の開発と販売促進 省燃費性能エンジンオイル（SN級）の拡販	年間売上 5,500 万円	
営業 2 部	顧客の要望している環境配慮型製品の販売 新規開発品の販売は、技術研究所研究開発 2 課と共同目標とする	年間売上 3,500 万円 〔40 件〕	
営業 3 部	顧客の要望する環境配慮型製品の開発・拡販	年間売上 1,500 万円	
業務購買部	外注先要因によるクレームの防止	0 件	
製造部	重油使用量の維持	2012 年度対比 3% 増以下	
製造部 業務購買部	納期遵守率の向上	100%	
技術研究所	研究開発 第 1 課	環境に優しい高性能商品の開発改良又は顧客に対して販 促資料の作成	3 件
	研究開発 第 2 課	顧客の要望している環境配慮型製品の新規開発 営業 2 部が販売目標とする環境配慮型製品の内新規開発品の販売を共同目標とする	8 件 1,120 万円
	研究開発 第 3 課	顧客要望（環境配慮要望も含む）をくみ上げ、特定用途 製品の開発をする	6 件
品質保証部	クレーム削減	重大：6 件以下 軽微：6 件以下	
	電気使用量の削減	2012 年度実績以下	
総務部	受注及び入力ミスの削減	1 件以下	
	可燃ごみの減量 （イレギュラー的要因は除く）	2010 年度対比 7.0% 削減	
全社	予防処置	年間 4 件以上	

2013年度 環境目標・実績

各関係部門において基本3年後の達成を目指し「環境目的」を設定し、単年毎の通過点である「環境目標」の達成に向けて取り組みました。仔細は次頁の通り。

	部門	環境目的	取組年数	H25年		
				目標	実績	評価
1. 増	営業1部	顧客における要望をくみ上げ新規製品化する	③	年間売上1,500万円	2,756万円	\(^o^)/
		環境配慮型製品の開発と販売促進 省燃費性能エンジンオイル(SN級)の拡販	③	年間売上5,500万円	3,996万円	m(_)_m
	営業2部	顧客の要望している環境配慮型製品の販売	④	年間売上3,500万円 [40件]	4,560万円 [35件]	\(^o^)/
	営業3部	顧客の要望している環境配慮型製品の販売	④	年間売上1,500万円	1,606万円	(^_^)
	製造・業務購買	納期遵守率の向上	④	100%	99.87%	(^_^)
	全社	予防処置	②	年間4件以上	36件/40件	m(_)_m
2. 減	業務購買部	外注先要因によるクレームの防止	⑨	0件	1件	(^_^)
	製造部	重油使用量の維持	①	2012年度対比3%増以下	3.56%増	m(_)_m
	研究開発第1課	環境に優しい高性能商品の開発改良又は顧客に対して販促資料の作成	④	3件	7件	\(^o^)/
	研究開発第2課	顧客の要望している環境配慮型製品の新規開発 営業2部が販売目標とする環境配慮型製品の内新規開発品の販売を共同目標とする	②	8件 1,120万円	10件 1,666万円	\(^o^)/
	研究開発第3課	顧客要望(環境配慮要望も含む)をくみ上げ、特定用途製品の開発をする	④	6件	7件	(^_^)
	品質保証部	クレーム削減	⑥	重大:6件以下	11件	m(_)_m
			⑥	軽微:6件以下	0件	\(^o^)/
		電気使用量の削減	③	2012年度実績以下	5.5%減	\(^o^)/
	総務部	受注及び入力ミス 会社における受注入力ミスの洗い出し	③	1件以下	2件	m(_)_m
		可燃ごみの減量 (イレギュラー的要因は除く)	③	2010年度対比 7.0%削減	10.2%増	m(_)_m

評価の凡例

\(^o^)/ : 目標値を10%以上達成しました!
 (^_^) : ほぼ目標値
 m(_)_m : 目標値の90%以下に終わりました

各部のコメント

テーマ	部門	達成率（目標対比）	コメント
顧客における要望をくみ上げ新規製品化する	営業 1 部	183.7%	的確な聞き取りと提案により安定した実績につながったと思われます。 次年度も顧客要望を取り入れた環境配慮型製品の提案を実施し製品化していきます。
環境配慮型製品の開発と販売促進	営業 1 部	72.7%	エンジンオイル需要低迷やこれに伴う価格競争加わり実績形状が厳しい1年でした。
顧客の要望している環境配慮型製品の販売	営業 2 部	130.3%	本年度も目標を達成することができました。やはりユーザーが環境配慮型製品を望まれている事は間違いありませんでした。 次年度もニーズを確実にキャッチすることで更なる高みを目指します。
顧客の要望している環境配慮型製品の販売	営業 3 部	107.1%	水溶性離型剤の伸長が大きく貢献いたしました。 次年度は水溶性離型剤に留まらず環境配慮型製品全般に目を向けて参ります。
納期遵守率の向上	製造部、 業務購買部	99.87%	過去4年間の実績は着実に伸びてきております。目標には届きませんでしたが部員の日頃の努力は評価できます。
予防処置	全社	36件 [年間4件×10部門]	10部門中5部門は目標達成。4部門が3件、1部門が1件の提出に終わりました。
外注先要因によるクレームの防止	業務購買部	1件	1件は不注意による軽微な事案でしたが、品質の認識と教育を再度行いました。 次年度も海外は大口短納期、国内は小ロット多品種化の傾向が益々強くなっていますのでそれに対応した外注管理を行って参ります。
重油使用量の維持	製造部	99.5%	10月までは効率良いボイラー稼動ができていたが、11月以降気温の低下に伴い加熱時間が延びたことで累計目標は未達となりました。
環境に優しい高性能商品の開発改良又は顧客に対して販促資料の作成	研究所 1 課	233.3%	大きく目標を達成することが出来ました。 次年度も営業部と連携で顧客の情報を把握し、顧客が満足いく製品開発を継続していきます。
顧客の要望している環境配慮型製品の新規開発	研究所 2 課	148.8%	3年計画の2年目で当初予定していた製品が納品まで至りませんでしたが、その他の製品で実績を計上でき大幅に目標を超える事が出来ました。
顧客要望（環境配慮要望も含む）をくみ上げ、特定用途製品の開発	研究所 3 課	116.7%	合計で7件の計上で目標を達成することが出来ました。ゴム用離型剤だけでなく、その他分野にも開発できたことは、有意義であったと思います。

各部のコメント

テーマ	部門	達成率(目標対比)	コメント
重大なクレーム削減	品質保証部	11件(目標6件以下)	累計11件を考えると毎月1件のクレームが発生している状況です。 (このうち4件がポカミス)全ての案件において再発防止対策を実施しております。
軽微なクレーム削減	品質保証部	0件(目標6件以下)	今期は軽微なクレームは発生しませんでした。 次年度は重大と軽微を分けずに全クレーム数の削減に取り組むようにします。
電気使用量の削減	品質保証部	105.9%	今年の累計削減率は10.4%が最高でした。最終累計削減率が5.5%となった要因はやはりエアコンの使用が大きいと推測されます。次年度は更に削減できるように取り組みます。
受注及び入力ミス 会社における受注入カミスの洗い出し	総務部	2件(目標1件以下)	年間11,000件を超える入力件数のうち入力ミスは2件でした。 受注入力者全員が細心の注意を払って作業することで、次年度も目標1件以内に再チャレンジします。
可燃ごみの減量 (イレギュラー的要因は除く)	総務部	84.2%	昨年対比で減量を目標にしていたが増量で終了しました。

中京化成工業株式会社
環境への各種取り組み



コンテナ用スロープ



蛍光灯のLED化
【事務棟、研究棟】



5S推進活動



緊急事態への対応
・漏洩テスト
・非常呼集(防災)





中京化成工業株式会社

CKK CHUKYO KASEI KOGYO CO., LTD.

ISO9001:2008 (JQA-QM3984)

ISO14001:2004 (JQA-EM4081)

〒448-0008

愛知県刈谷市今岡町西吹戸 10-1

TEL: (0566)36-3690 (代表)

FAX: (0566)36-6156

URL: <http://www.c-k-k.co.jp>

10-1, Nishifukido, Imaoka-cho

Kariya-City, Aichi-Pref., JAPAN

TEL: 0566-36-3690 (General Line)

FAX: 0566-36-6156